



対談

仁賀保高等学校生徒会 × にかほ市長

仁高とにかほ市

デジタル社会が加速していく時代、仁賀保高校が得意とするデジタル技術を用いた取り組みがますます注目を集めています。本頁では、「地域、未来、デジタル」の3つをテーマに仁賀保高校生と役員3人とにかほ市長が対談した様子をご紹介します。

仁高と地域(にかほ市)

仁賀保高校にとっての地域、地域にとっての仁賀保高校

仁 仁賀保高校にとって、地域は必要不可欠なものです。「総合的な探究の時間」では地域資源や地域課題について学び、また伝承芸能を体験することをおして、自分たちの住む地域の大切さを感じています。

市 仁賀保高校はにかほ市にとって重要な存在です。なぜ他市とは違って仁賀保高校はにかほ市に無くてはならない学校なのか、高校生の皆さんはわかりますか？

の高校だからだと思います。市のことを知って地域の未来を担う若者を育てるためではないでしょうか。

市 そうですね。仁賀保高校は総合的な探究の時間などをおして、地域と関わる機会が多い高校です。手や体を動かしながら地域と関わることで、地域に深く入り込むことができますし、そこで経験したことは、記憶と知識として自分に残ります。またその関わりの中で、地域の人の顔を知り、その人の存在を知ることができます。これはとても大事なことで、地域に対する想いや愛着を生むことにつながり、それがやがて「地域を守ろう、地域を支えていこう」という気持ちを育てていくことにつながります。この経験をすること、例えば卒業後に市外に出て行ったとしても、無意識にふるさとを意識するようになると思いますし、それによりお互い支え合う意識が醸成されていくと思います。

仁高と未来

高校生が描く仁賀保高校とにかほ市の未来

仁 これからの時代は、若者も地域の一員として発言をしていく必要があると思います。仁賀保高校は他校と違って、市長をはじめ地域の方たちと関わる機会が多いと思います。今の関係性を言葉にすると「友達」。仁賀保高校とにかほ市の未来は「親友」のような関係になって、良いところも悪いところも話し合い、支え合っていく関係性になればいいと思います。あと、未来のにかほ市にコストコがあればいいな(笑)

他には、にかほ市の魅力を全国や海外にどんどん発信して、その魅力に気付いてもらい、にかほ市に移住や観光で訪れる人が増えてくれるといいですね。市の人口が増えることにより、仁賀保高校に入学する生徒も増えればいいと思います。特に多

くの方に知ってもらいたいにかほ市の魅力は、水が豊かです。綺麗なお水です。この魅力を発信するために、にかほ市の水を炭酸水にして販売するのも面白いと思います。

市 炭酸水は面白いね。今の大人の多くは、にかほ市の水が豊かで綺麗だということに高校生の時は気付いていませんでした。君たちがそのことを知っているのは、地元で触れる機会があったことと、気付く機会があったからだと思います。そのような気付きの機会を仁賀保高校や市は増やしていきたいと思っています。そして、机の上だけでは発見ができない体験や経験をしてもらい、大人の視点だけではなく、若い人たちの視点から生まれる発想をどんどん出してもらいたいし、大人たちはそれを取り入れていきたいと思っています。それが今提案された炭酸水にあると思います。

仁高とデジタル

高校生が考えるデジタル技術を用いた地域との関係

仁 これまで仁賀保高校は市などから依頼されたイベントポスターやCMなどを作成してきました。また、県内でも先駆けて

各行事を保護者向けにYouTubeで配信しています。

これらは、パソコンを使った技術に長けている情報メディア科があり、ネットワークの分野に強みのある仁賀保高校だからこそできたのだと思います。

市 これには大変感謝しています。情報メディア科は力量があるので市としても安心して依頼できますし、生徒たちも公の場に出る作品を作るので、どんなスキルを上げてきてくれますか。お互いにいい関係にあると思います。今後も成果の発表の場として行政を使ってもらいたいと考えています。そして仁賀保高校は情報メディア科の歴史が長いので他校と比べて大きなアドバンテージがあります。これらにかほ市の情報デザイン分野の先駆者として周囲を牽引してほしいと思っています。

仁 話はテーマから少しずれるかもしれませんが、芸術大学等では卒業制作として作品を残していますよね。仁賀保高校でも3年間の学びの集大成として同じようなことができたら面白いと考えています。例えば情報メディア科には、コンテンツ系の授業とシステム系の授業があります。双方が協力しゲームなどを制作してみるのも1つの案と

して挙げられます。県立大学の文化祭にお邪魔した際に大学生が制作したゲームを体験しました。実際にある街がリアルに表現されていて、その中にさまざまなキャラクターたちが配置されていて不思議な世界観を体験できました。

市 普通科とも一緒に何かできそうですね。

仁 普通科の生徒はゲームのストーリーであるプロットを作成するというのができるかもしれませんね。ゲームは総合芸術なので、普通科はシナリオ、情報メディア科はグラフィックとプログラミング。オール仁高で作るゲームをコミックマーケットに出品するのも面白いと思います。

市 アプリも作れたら面白いですね。最初は拙いものになるかもしれませんが、毎年ブラッシュアップを重ねていいものを作っていくことも出来ると思います。若い時に熱意をもって取り組むことはいいことだと思いますし、そういう環境を造り出すのが大人の役目だと思います。この卒業制作、とても面白い企画ですね。是非実現させてお互い高め合い、ワクワクする未来に向かって進んでいきましょう。

未来
ワクワクする市
誇れる場所
楽しい



ゲーム
デジタル

炭酸水
地域

水